

4. その他

報告1. 2025年度事業計画

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

【企画運営活動】

1. 第42回社員総会

5月30日・大阪科学技術センターで開催予定。主な議題は、①2024年度事業報告承認の件、②2024年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録承認の件 ③役員選任の件、④名誉会員推薦の件、⑤定款変更の件、⑥その他（2025年度事業計画報告・2025年度収支予算報告・新終身会員報告）。

2. 理事会

本会の意思決定機関として、本会の事業活動を担っている事業企画委員会、会誌委員会、各種委員会、特別委員会等の活動状況の報告をうけ、定款によって定められた審議事項並びに会全体の運営に係わる事項についての審議・決定を行う。2025年度は第232回～236回の5回を開催予定。

3. 委員会等

会長の諮問に答え、また委員会規程に基づき各種の業務執行にあたる。2025年度は下記11の委員会および監査会を設置する。

(1) 人事・財務委員会

定款第46条に基づいて事務局職員の任免並びに給与等および本会の予算案の編成並びに経理と財務を掌理し、長期的財政の安定を図る。2025年度は1～2回を開催予定。

(2) 事業企画委員会

本会の目的達成のため必要な事業企画を掌理する。2025年度は6回を開催予定。

(3) 会誌委員会

会誌委員会は、理事会と会誌（『近畿化学工業界』）編集委員会との間の意思疎通を円滑にし、必要に応じて、会誌の編集等に協力する。2025年度は12回を開催予定。

(4) 技術賞委員会

表彰規定に基づく事項を掌理する。2025年度は2～3回を開催予定。

(5) 総務委員会

総務委員会は、総務的事項並びに他の委員会に該当しない事項で、本会の運営上必要かつ重要な事項を掌理する。また必要に応じて、新規会員（特別および正会員）獲得のため各委員会が行うイベント等の情報共有・調整を行う。2025年度は2～3回を開催予定。

(6) 合同事務局運営委員会

一般財団法人大阪科学技術センタービル608号室に同居する化学系の学術5法人の運営に関する事項を合同事務局運営規則（部屋代・人件費・社会保険料・事務局運営経費等の経費分担）により掌理する。2025年度は2回の開催を予定。

(7) 研究部門委員会

部会の運営、改廃を掌理し、また本会の目的のための必要な部会・研究会の設置について審議する。2025年度は2～3回を開催予定。

(8) 国際交流委員会

これまでの開催行事の経緯等について収集した情報をもとにした関係イベントの開催のほか、中長期的観点で今後の活動を検討する。2025年度は1～2回を開催予定。

(9) ダイバーシティ推進委員会

本会内でのダイバーシティの推進の実現に向けて、会員や社会に対しての啓発、および会員間の情報共有などを行う。2025年度は1～2回を開催予定。

(10) 情報化委員会

本会の効率的・効果的運営に必要な情報化社会システムの活用について企画、推進する。2025年度は1～2回を開催予定。

(11) 監査会

定款第25条に掲げる監事の業務を執行する。①理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。②理事および事務局に対して事業の報告を求め、本会の業務および財産の状況を調査する。2025年度は1回を開催予定。

そのほか特別委員会を必要に応じて開催。

【国際研究集会・国際交流事業】（公益目的事業1）

多くの日本の研究者および化学系企業が進出している海外の下記拠点において大学、研究機関、企業の技術者を対象とした技術交流会（学術講演会・見学会）を開催し、学術研究や異種産業技術間の連携・交流の場を提供する。会員・非会員に関係なく広範に参加を募り、我が国科学技術の振興と社会経済に貢献することを目的とする。

1. 韓国工業化学会との交流

2025年度は情報交換および化学啓発行事である韓国化学工業会の年会の内容などを本会機関誌および韓国の連絡拠点を通じて大学、企業に周知して参加を促す。

2. より広地域、並びに多様な交流事業を企画実施する。

【優れた研究業績の顕彰事業】（公益目的事業2）

化学工業振興の見地より若い研究者および技術者の優れた業績を発掘するとともに、化学技術の発展に向けての更なる貢献を期待し、その業績をたたえ激励することを目的として、化学・環境技術賞を設けて顕彰を行う。

1. 2024年度第77回化学・環境技術賞授賞者7件・21名の表彰を行う。

2. 2025年度第78回化学・環境技術賞の審査、選定（3月）

第78回「化学・環境技術賞」

2025年度内における化学に関連する研究・技術で工業的・社会的・学術的価値が明らかになったもの、および地球環境との共存並びにその維持・改善を積極的に意識し、方向付けがなされた新技術・改良技術で工業的・社会的・学術的価値が明らかになったものについて、本会の定款および表彰規定に基づき技術賞審査委員会にて選定する。

【人材育成のための研修事業および能力開発事業】（公益目的事業3）

1. 第47期研修塾

会員企業より選抜された30歳代の技術者、研究者を対象に1年を通じて人格並びに人脈形成を図る。明日の産業界を担う次代の人材育成を主旨に、自らに討議主題を課すと共に自らの頭で考える力を涵養し、また、第一線でご活躍の講師を招いて、その人間性や思想に触れる中でお互いに研鑽し、資質を磨き、人脈並びに人格形成を図る。（塾生26名）

塾頭：三浦 雅博（大阪大学先導的学際研究機構特任教授）

副塾頭：大野 敏信（元（地独）大阪産業技術研究所理事・森之宮センター長）

〃：藤田 健一（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

2. 学術セミナー・講習会

本会の目的達成をするために事業企画委員会で化学に関する専門的な学術セミナー・学術講習会・学術講演会・見学会等の開催により、科学技術の普及・振興を図る。

2025年度は下記6件を実施予定。

事業企画委員長：林 高史（大阪大学大学院工学研究科教授）

- ① 第30講研究開発リーダー実務講座2025（7月～12月の毎月1回、全6回）
- ② 近化電池セミナー
- ③ 近化新春セミナー2026
- ④ 第22回キンカ高分子化学研修コース
- ⑤ 近化サミット
- ⑥ 近化資源・環境セミナー

3. 学術講演会

本会社員総会終了後の特別講演会として5月30日・大阪科学技術センターとオンライン形式の併用で開催を予定。

「社会を変えたQRコードの原点と成長」

（株）デンソーウェーブ エッジプロダクト事業部 主席技師 原 昌宏氏

4. 見学会（科学技術週間協賛行事）

科学技術の普及啓発活動の一環として、科学技術に関し、ひろく一般国民の関心と理解を深め、もって我が国の科学技術の振興を図ることを目的に見学会を年1回企画・実施する。

2025年度は4月18日・シオノギファーマ（株）摂津工場（大阪府摂津市）にて医薬品の製剤工程や包装工程の見学を予定。

【化学に関する知識普及および情報の提供事業】（公益目的事業4）

機関誌「近畿化学工業界」を月刊誌として、化学工業に関する広巾な知識の普及と情報の提供を行うことおよび情報の交換の場とすることを目的として発行する。記事内容は共通する事項を網羅して、専門以外の幅広い化学分野の最先端の動きを掲載することにより、化学技術の普及と振興を図る。

1. 会誌「近畿化学工業界」電子版と冊子版の刊行

2025年度は第77巻第4号～第78巻第3号（通巻864号～875号）を刊行（月刊）予定。

編集委員長：杉野目 道紀（京都大学大学院工学研究科教授）

【技術交流事業】（共益事業1）

特定分野に限らない学術講演会・サロン・見学会・交流会の開催により、科学技術の普及、振興を図る。

1. キンカ東京サロン

東京在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い会員交流・技術情報の交換を図る。年5回の開催を予定。（4、6、9、11、2月）

2. キンカつくばサロン

筑波在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い会員交流・技術情報の交換を図る。年1回の開催を予定。

3. キンカ京都化学者クラブ

京都在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い会員交流・技術情報の交換を図る。原則として毎月第1土曜日に開催予定。

4. 第76回新年交歓会

化学並びに化学工業界の発展に尽くされた名誉会員をはじめ、大先輩をお招きして、産官学の会員が一堂に会して情報交換と交流を行う。

2025年度は2026年1月23日・ホテル日航大阪にて開催予定。

5. 化学技術アドバイザー会（キンカCA）

アドバイザー登録者（近畿化学協会正会員の有志95名）による自主運営とし、近畿化学協会での位置づけ（組織図）は研究部門委員会（専門部会・目的研究会）の規程を準用する体制のもとで活動を行う。会員企業および一般企業からの依頼により技術相談を行う。

工学倫理研究会、化学教育研究会、安全研究会、MOT研究会では登録会員間の情報交換・懇談会およびこれまでの経験を生かした社会への貢献、啓発活動を行う。

【専門部会事業】（共益事業2）

化学の専門分野に応じた9つの専門部会と1つの研究会を設置し、各専門部会・研究会が各々の目的に沿って部会員等の活動の場となり、部会員等が協力して科学技術の振興を図る。部会員等相互の学術的および技術的知識の増進を図ることを目的として、例会（学術講演会）、基礎講習会、学術講習会、学術セミナー、討論会、シンポジウム、フォーラム、公開講演会、懇話会等を行う。

第1部会（有機金属部会）

有機金属化学における基礎研究並びにスペシャリティケミカルズの開発に関する研究会として例会（学術講演会）・学術セミナー・討論会等の実施および知識普及事業として部会機関誌 Organometallic News を刊行予定。

- ・部会長：野崎 京子（東京大学大学院工学系研究科教授）部会員数 520名
- ・例会：年3回開催
- ・第51回有機金属化学セミナー（6月11日・オンライン）
- ・第71回有機金属化学討論会（9月17～19日・岡山大学津島キャンパス）
- ・部会機関誌 Organometallic News 2025 No. 2～3, 2026 No. 1 (Web版), 2025冊子体刊行

第2部会（合成部会）

有機合成化学の基礎研究並びに医薬、農薬、エネルギー開発、生体模倣材料の合成化学的開発に関する研究会として合成フォーラム等を実施。部会内に設置されたフロー・マイクロ合成研究会では、自動合成やマイクロリアクターを使った合成に関する研究会として研究会（学術講演会）、公開講演会&展示会等を実施予定。

- ・部会長：南方 聖司（大阪大学大学院工学研究科教授）部会員数 269名
- ・合成フォーラム：年2回開催
- ・公益社団法人有機合成化学協会関西支部主催の関連行事を支援

[フロー・マイクロ合成研究会]

- ・代表：深瀬 浩一（大阪大学放射線科学基盤機構特任教授）会員数 298名
- ・例会：年3回開催
- ・第39回公開講演会&展示会（7月31日・大阪科学技術センター）

- ・ I C A M S - 4 (8 月 1 日 ・ 大阪科学技術センター)

第3部会 (触媒・表面部会)

触媒化学の基礎研究並びにファインケミカルズ開発の触媒設計等に関する研究会としてキャタリストクラブ例会 (学術講演会・研究発表会)、学術セミナー、学術講習会、国際シンポジウム等を実施予定。

- ・ 部会長：古南 博 (近畿大学理工学部応用化学学科教授) 部会員数 144名
- ・ 例会：年2回開催
- ・ 入門触媒科学セミナー (10月・大阪科学技術センター)
- ・ ナノ材料の総合分析講習 (11月・大阪工業大学)
- ・ Osaka-Kansai International Symposium on Catalysis (OKCAT) (11月・大阪大学)

第4部会 (ヘテロ原子部会)

無機化学、有機化学、高分子化学、触媒化学、ならびに生体関連化学などの発展に資するヘテロ原子化学の基礎研究並びに応用開発に関する研究会として懇話会 (学術講演・見学会) 等を実施。

- ・ 部会長：西山 豊 (関西大学化学生命工学部教授) 部会員数 182名
- ・ 懇話会：年3回開催

第5部会 (バイオ部会)

バイオテクノロジーの基礎研究並びに工業生産技術開発に関する研究会として例会 (学術講演会) 等を実施予定。

- ・ 部会長：跡見 晴幸 (京都大学大学院工学研究科教授) 部会員数 97名
- ・ 例会：年2回開催

第6部会 (機能性色素部会)

機能性色素材料の基礎研究並びにデザイン、合成、物性等に関する研究会として例会 (学術講演会)、公開講演会および2年に1回200名規模の機能性色素および先端材料に関する東アジアシンポジウム (EAS) を日本またはアジア地域において実施予定。

- ・ 部会長：八木 繁幸 (大阪公立大学大学院工学研究科教授) 部会員数 159名
- ・ 例会：年3回開催
- ・ 見学・研修セミナー [エレクトロニクス部会と共催] (7月・(株)島津製作所)
- ・ 合同公開講演会 [エレクトロニクス部会と共催] (10月・大阪科学技術センター)
- ・ 第12回機能性色素および先端材料に関する東アジアシンポジウム (EAS-12) [エレクトロニクス部会共催] (9月24日～26日)

第7部会 (エレクトロニクス部会)

電子材料の新素材研究と学際領域の技術開発に関する研究会として例会 (学術講演会)、研修セミナー、公開講演会等および、部会機関誌 Electronics Communicationsを刊行予定。

- ・ 部会長：中山 健一 (大阪大学大学院工学研究科教授) 部会員数 129名
- ・ 例会：年3回開催
- ・ 見学・研修セミナー [機能性色素部会と共催] (前出)
- ・ 合同公開講演会 [機能性色素部会と共催] (前出)
- ・ 第12回機能性色素および先端材料に関する東アジアシンポジウム (EAS-12) [機能性色素部会共催] (前出)
- ・ 部会機関誌 Electronics Communications No. 41 電子版刊行

第8部会（コンピュータ化学部会）

物質のデザイン、生産工程のコントロール、人工知能開発研究に関する研究会として例会（学術講演会）、公開講演会、公開セミナー等を実施予定。

- ・ 部会長：中嶋 隆人（（国研）理化学研究所計算科学研究センターチームリーダー）
- 部会員数 83名
- ・ 例会・公開講演会：年3回開催

第9部会（重合工学部会）

重合体製造プロセスに関する研究会として例会（学術講演会）、重合プロセスの基礎講習会、重合工学レクチャーシリーズ等を実施予定。

- ・ 部会長：安田 昌弘（大阪公立大学大学院工学研究科教授）部会員数 55名
- ・ 例会：年2回開催
- ・ 重合プロセスの基礎講習会
- ・ 重合工学レクチャーシリーズ

＊ 上記の他、各部会運営委員会にて独自の企画を随時実施。

【学協会との連携および合同事務局の運営事業】（共益事業4）

1. 学協会との連携および合同事務局運営事業

一般社団法人近畿化学協会・公益社団法人日本化学会近畿支部・公益社団法人化学工学会関西支部・公益社団法人日本分析化学会近畿支部・公益社団法人有機合成化学協会関西支部の5法人で「合同事務局運営委員会」を組織して合同事務局の運営を行う。

2. 関連学協会行事協賛

化学分野の学術団体が主催する学術セミナー・学術講演会などの行事に協賛し、内容を会誌やホームページなどで会員に周知する。会員が行事に参加する場合は各主催者で定めた割引費用で参加できる。

2025年度事業計画の付属明細書

2025年度事業予定には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上